

# Computer Report

## はじめの言葉

■大震災後、復興に向けて日本は今ひとつにならなくてはならない。これは、日本人が今、強烈に共有している国民的コンセンサスである。やっと始まった避難所から仮設住宅への移転を契機に、地元住民らの有志による被災者への必要物資調達を進める活動の輪（和）が全国に拡がり、全国の善意がこれに呼応しようとしている。まさに日本の、日本人の和が、名実ともに充実してきているようである。

■それに引き換え、永田町の非常識ぶりはどうだ。与党の指導力不足はすでに明らかだが、非常時の今、それを嘆いているヒマはない。ましてや政治的空白など許しているヒマもない。それを今さらに指摘し、政局へと持ち込んでいる野党の動きもまた、自らの指導力の無さ、自信の無さを表明していると言える。他人の足を引っ張ることで自分の存在を示す。下策中の下策である。何より、国民の気持ちが解っていない証拠である。

■政権与党のもたつきよりも、谷垣自民党総裁の「空白の 50 数分間の追求」ほど滑稽で憐れなものはない。福島第一原発への海水注入停止の指示に関する国会質問の一件である。注水停止命令で核燃料のメルトダウン（炉心溶融）をもたらしたのではないかと長々と鬼の首を獲ったかの勢いで追求したが、メルトダウンが明らかになった後での追求であり、後出しジャンケンの形だっただけに、国会質問自体が国民には滑稽に映っていた。

■結果から有り体に言えば、絵に描いたような自業自得、気の毒なほど谷垣自民党は惨めであった。周知のように、政府からの指示命令など関係なく、海水の注入は現場責任者の判断で継続実行されていたことが判明したからである。それにもかかわらず、メルトダウンは起こっていたのだ。この事実は、いかに国会／永田町での行動一式が、与党野党を問わず、ひとまとめにして「お粗末で下らないもの」であるかを証明して見せた。

■国民が国中を挙げてひとつになろうとしている今、お粗末な権謀茶番劇を演じている国会関係者だけが国民の輪（和）の埒外にいるようだ。駄目な与党だというなら、政府に代わって、より良い代替案を出して見せる野党であって欲しい。それなくして、駄目な与党の足を引っ張る下策しか案の出ない野党は、さらに駄目な政党である。少なくとも、今の日本国民が必要としている政党ではない。

■とにもかくにも、今回の東電のドタバタ劇には参った。現場の吉田原発所長はメルトダウンを懸念して独断で注水を続行したとのこと。本店からの指示命令を遵守する、しないの是非はともかくとして、メルトダウン制止に努力したということでは、彼は英雄視されるところだった。が、その前日には地震でメルトダウンしていたのだ。社長命令をあえて拒否してまでの注水続行だったが、時すでに遅しのお笑いだった。

■ガベージイン／ガベージアウト（誤ったデータを入力すれば誤った結果が出る）は、コンピュータ処理の基本原則である。基礎となる情報（事実データ）が把握できていないで正しい情報処理活動はできない。いかなるインテリジェンス情報も出てこない。今ひとつになりつつある日本国民が必要なインテリジェンスは、今現在の国会をご破算にした次元で考えないと出てこないのかもしれない。（藤見）